

# 第6回国際成人教育会議（CONFINTEA）

## のための国内「草の根会議」

開催日時 2008年10月28日（月）午後6時～8時

開催場所 法政大学（市ヶ谷）80年館 丸会議室

### 本日の議題

#### 議題

- 1 参加者自己紹介
- 2 「草の根会議」呼びかけ団体新規参加団体等の情報ほか  
呼びかけ団体の追加  
教育協力NGOネットワーク（JNNE）  
図書館問題研究会  
参加団体またはお誘いしている団体  
  
環境教育・・・  
図書館情報学会  
日本ユネスコ協会連盟（NFUAJ）
- 3 「意見交換会」の様子  
10月1日寄せられた意見も含め
- 4 リ・ジョン会議報告  
CSO組織の立場から（ASPBAEなどの取り組みも含め）  
  
政府代表の立場から（立田）
- 5 各団体の動き  
日本社会教育学会研究大会での議論の様子（常葉 - 布施美穂）ほか  
その他、みなさまの所属団体の様子などご紹介ください。
- 6 市民社会組織によるレポ - ト作成のためのスケジュー - ル・方法について
- 7 次回会議予定  
（1）「草の根会議」第3回会合  
（2）運営委員会

## 6 市民社会組織によるレポ - ト作成のためのスケジュール・方法について

素案 荒井容子

( 1 ) 作成期限 前回の確認では年内日本語版完成 年明け1月中に英訳してUILに送付  
変更する必要・可能性はあるか。

( 2 ) 作成方法

### 1) 基本的考え方(案)

#### レポ - ト作成の目的

日本の社会教育政策の現状(国・地方自治体)と実践・研究の到達水準について、市民社会団体の立場から、明らかにする。

第6回国際成人教育会議に対する期待を市民社会団体の立場から確認し、表明する。文科省作成レポ - トを補う。しかし、見解が異なることも自由に分析・記述する。

上記の過程で、市民社会諸団体、政府、政府機関の間で、ともに日本の社会教育及び世界の成人教育について、その政策・実践のあり方を自由に議論し、すぐれた政策と実践の推進していくための知恵と協力関係を築いていく。

#### まとめ方の原則

団体間で見解が割れる場合には無理に一つにまとめない。

しかし、できるだけ相互に情報・考え方を学び合って、まとめていくようにつとめる。それぞれの団体の専門分野を生かす。しかし、必ずしも分担方式にはしない。

### 2) 具体的な討議・作成手順(案)

#### 2 - 1 検討項目の確定

2 - 1 - 1 ガイドラインの項目をふまえる

2 - 1 - 1 - 2 文科省作成のナショナル・レポ - トをふまえた項目について

2 - 1 - 1 - 2 文科省作成のナショナル・レポ - トの不足項目について

2 - 1 - 2 ガイドラインにないが、必要と思われる項目の設定

#### 2 - 2 検討項目ごとの検討と集約

2 - 2 - 1 検討項目ごとに、各団体が必要に応じて、レポ - ト(情報・分析結果・意見)を持ち寄る。

2 - 2 - 2 検討項目ごとに、持ち寄ったレポ - トをもとに討議し、可能なら一つに、意見が割れて、合意に至らない場合には、併記するかたちで(後の議論に継続に役立つ形で)まとめる。

#### 3) 「草の根会議」運営委員会を開催し、次回、検討項目を確定する。

その検討項目を各団体で持ち帰って、レポ - トを作成し、次の「草の根会議」にもちよる。必要に応じて、項目(2~3まとめて)ごとにわけて、検討会議としての「草の根会議」を複数回開催する。

項目確定過程ではリ - ジョン会議、グローバル・レポ - ト作成過程、ASPBAE、ICAEなどの提言、他の国の市民社会レポ - トやナショナル・レポ - トなども参照する。